

2023年度

# 事業計画書

2023年1月1日から

2023年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

# I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

## 1 方針

東日本大震災から11年を経て変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通り子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

## 2 支援事業の概要

### (1) カウンセリング

- ・復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO法人相馬フオロアチーム、NPO法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施している。現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- ・2023年度においても南相馬市から継続の要請を受けているため、支援を継続する。3月末まで継続、その後については更に回数を増やすよう打診されているが、南相馬市との協議により最終決定。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行う。

### カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	7名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	<b>【支援者（機関）】</b> 南相馬市教育委員会、NPO法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園 <b>【実績】</b> ・2011年度より継続実施 ・2022年度までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：5,171件、教員：581件、保護者676件		

### (2) スポーツ交流

- ・福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカースクールおよびサッカー指導講習会の開催についての要請を受け、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施している。
- ・世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）等の支援活動を行う。

## スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもサッカー大会</li> <li>サッカースクール</li> </ul>	福島県相馬市	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の児童・生徒</li> <li>青年等</li> </ul>	2023年1月 14日～15日
備考	<b>【協働者（機関）】</b> 学校法人国際学園、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬 <b>【実績】</b> 2011年度より継続実施		

### (3) 各地での災害等への支援

- これまで、国内外各地で発生した災害等に対し、緊急募金活動等を実施し、被災地の子どもたちや青少年のために活動する自治体・団体に寄付を行ってきた。今後も国内外で災害等が発生した際には、必要に応じこの活動を継続していく。

#### 【近年の支援活動実績】

- 2020年7月 豪雨による九州地方被害への緊急募金活動
- 2019年10月 沖縄 首里城焼失 再建のための募金活動
- 2019年10月 東北地方台風被害への緊急募金活動

## II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

### 1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国を中心に支援を実施してきたが、2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、当財団職員が現地に赴いての活動、また現地との密接なやり取りを要するプログラムの継続に困難が生じていた。今後は海外への渡航含め状況の改善に応じて、中断していたプログラムの見直し、整理を行っていく。特にスポーツを通じた支援については、大きな契機となった東京オリンピック・パラリンピック大会が終了したこともあり、これまで継続的な支援を通して築いてきた実績を有効に活かすため、今後のあり方について精査の上進めていく。なお、ミャンマー連邦共和国への支援は2022年度で一旦の区切りとし、2023年度は実施しない方向。

### 2 支援事業の概要

- 2023年度上半期に現地出張を計画し、今後の支援方針について関係者と協議を行う。
- エリトリア国およびブータン王国において現在継続中、または懸案となっているプログラムおよびその経緯は下記の通り。
- なお、留学生の受け入れについては「III 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」に記載する。

## (1) エリトリア国

①Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	Unicef 選定のモデル校 および周辺コミュニティ	後日決定
経緯	2018年1月のエリトリア国訪問時に、Unicef からの依頼を受け協議を実施。Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界こども財団との協働の要請を受けた。その後、2019年10月に第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始したものの、2020年以降、現地 Unicef 事務所の活動停止により、ペンディングとなっている。	
備考	【協働者】 Unicef エリトリア	

② スポーツアカデミーの運営支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	首都アスマラを 中心とする青少年	要請或いは協議により決定
経緯	2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーの開設は、エリトリアの子どもたち、青少年に安全・安心な環境で教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技トラックの破損がひどくその修繕支援を2018年度に実施した。新型コロナウイルスの影響で2020年以降は具体的な支援に至っていないが、2021年7月、東京オリンピック大会期間中に来日した同国文化・スポーツ庁長官とは東京で会議を持ち、状況の確認を行った。	
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟	

③ エリトリアでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やエリトリア国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。今後の方針については文化スポーツ庁および関係各所と協議の上検討する。	
備考	<b>【協働者（機関）】</b> エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園  <b>【実績】</b> 2019年度 アスマラマラソン開催支援 2020年度 東アフリカハーフマラソン出場支援 2021年度 オリンピック・パラリンピック出場支援 2022年度 陸上競技連盟関係者を日本に招聘、協議実施	

④ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、同国初のパラリンピック大会出場を目指し、アスリート1名の支援を行ったが、同大会への参加は叶わなかった。2021年に同国パラリンピック委員会が正式認可されたことから、今後について現地のニーズを把握した上で検討する。	
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同パラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟 【実績】 2020年度 ロサンゼルスマラソン出場支援（車いすマラソン）	

(2) ブータン王国

① スポーツスクールの運営支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	公立・私立選定協力校	後日決定
経緯	2019年10月、ブータンオリンピック委員会、並びに教育省との共同プロジェクトチームより、ブータン王国にて開校予定のスポーツスクールへの運営支援、および星槎グループ並びに日本国内公私立高校への視察・調査における協力および支援の依頼があった。このスポーツスクール開設の主な目的は、アスリート達が特定の競技に早期から取り組み、日常的に練習が可能となることによる国際競技力向上および安定維持である。2020年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツスクールの開校予定も延期を余儀なくされた。2023年度も同国ブータンオリンピック委員会と引き続き協議の上支援について検討する	
備考	【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、同オリンピック委員会、学校法人 国際学園	

② ブータンでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やブータン国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。今後の方針については同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討する。	
備考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園 【実績】 2019年度 ツアー・オブ・ドラゴン（自転車競技大会）開催支援 ブータン国際マラソン開催支援 2020年度 ブータン・日本リモートアーチェリー大会開催 ブータン・日本リモートインドアーチェリー大会開催 ライフル射撃用具寄贈 2021年度 ブータン国際マラソン開催支援 オリンピックデー開催支援 東京オリンピック大会事前キャンプ受け入れ・大会参加支援	

③ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国において身体および知的障がいを持つアスリート	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、パラリンピック委員会の設立、アスリート育成、事前キャンプ受け入れ等の支援を継続してきた。パラアスリート3名がブータン史上初のパラリンピック大会出場を果たし、東京大会が無事に終了したことから、今後の支援については現地のニーズを把握した上で検討する。	
備考	<b>【協働者（機関）】</b> ブータンパラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人国際学園 <b>【実績】</b> 2019年度 ブータン・パラリンピック・フェスティバル開催支援 福祉車両2台の寄贈、パラスポーツ用品寄贈 2021年度 東京パラリンピック大会事前キャンプ受け入れ・大会参加支援	

### Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

#### 1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア国、ブータン王国との国際相互理解を図るため、当該国より陸上競技をはじめ各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者ととともに協働して実施する。また、異文化理解・友好関係の構築を目的とするイベントの開催、JICA 横浜と連携した研修生受け入れ事業、および国際理解促進のための教育機関における授業プログラム等も実施する。

#### 2 支援事業の概要

##### (1) エリトリア留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- エリトリア国より、陸上競技およびバスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。
- 2022年度に、第三期エリトリア奨学高校生（陸上競技高校生男女4名＋バスケットボール競技男子2名、計6名の新規受入）の受け入れを開始した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2年遅れでの入国となったが、渡航前から受け入れ予定校と連携し通信教育の形でレポート等の課題を提供、待機中も現地で取り組みを継続した。6名については2023年3月にプログラムを終え帰国予定のため、修了まで引き続き支援をしていく。
- 2021年3月、星槎国際高校湘南より1名が卒業、星槎道都大学へ進学。同年9月、星槎道都大学より1名卒業、11月星槎グループに就職し、国際部および陸上競技関連の職員として勤務を開始した。在籍生徒については2023年度も継続して支援していく。

## 留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	エリトリア国 文化スポーツ庁 陸上競技連盟 バスケットボール連盟	(継続) 高校生 6名 大学生 3名	・2017年より継続
備考	<p><b>【受入れ校】</b> 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p><b>【協働者（機関）】</b> エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および各競技連盟、 学校法人 国際学園</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>2017年度 高校・大学留学生の受け入れを開始、これまでエリトリアより11名を受け入れ</p> <p>2019年度 2名が高校を卒業し1名が星槎大学へ進学、1名が帰国</p> <p>2021年度 1名が高校を卒業し星槎道都大学へ進学 1名が9月に星槎道都大学を卒業、11月より星槎グループ職員として勤務を開始</p> <p>2022年度 2名が高校を卒業し、うち1名が星槎道都大学へ進学、1名が帰国 6名を星槎国際高等学校湘南にて新規受け入れ（1年間のプログラム）</p>		

### (2) ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、陸上・アーチェリー・射撃・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。選定については、現地オリンピック委員会との協議の上行う。
- ・ 2023年度は、高校留学生2名程度を、アーチェリー 競技を対象に受け入れる予定。
- ・ 併せて、在籍中の星槎大学1名（陸上短距離）、星槎道都大学2名（柔道）の受け入れを継続する。

## 留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	ブータン王国	(継続) 大学生 3 名 (新規) 高校生 2 名	・ 2018 年より継続 ・ 後日決定
備考	<p><b>【受入れ校】</b> 学校法人 国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p><b>【協働者（機関）】</b> ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益財団法人全日本柔道連盟</p> <p><b>【実績】</b></p> <p>2018 年度 陸上 1 名・アーチェリー 2 名、星槎国際湘南で受け入れ開始</p> <p>2019 年度 星槎国際湘南から 1 名卒業、星槎大学へ進学 新規柔道 2 名、星槎道都大学で受け入れ開始</p> <p>2020 年度 星槎国際湘南 2 名卒業、帰国</p>		

### (3) その他 アフリカ・アジア各国からの留学生受け入れ

- これまでエリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国からスポーツ留学生の受け入れを実施してきたが、国際交流イベント等を通じて、他国からも同様の支援への要望が寄せられている。上記 3 つの地域外からも、当財団の活動目的を十分に理解し協力する送り出し団体があること、また将来有望でありスポーツだけでなく勉学にも励むことができる候補者がいることを前提に、留学生受け入れ支援の検討を、2023 年度より行い、1 名程度を受け入れる予定。

### (4) 「SKY プロジェクト」の実施

- 2017 年度より、ホストタウン事業で協働してきた神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町とともにスタートした SKY プロジェクトは、2021 年度に実施された東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会終了を持って一旦の区切りとなったが、箱根町から引き続き、SKY プロジェクト名義での交流事業の要請を受けた。これまでの交流事業を未来へと繋ぐ上で大変有意義であると考え、協働して実施することとした。
- 2023 年 1 月に、箱根町にてイベントを開催、エリトリアからの留学生と地域のこどもたちとのスポーツ、文化交流を実施予定。



## SKY プロジェクト実施概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
SKY プロジェクト	エリトリア国	箱根町を中心とした保育園、 小学校、中学校の園児・児 童・生徒	2023年1月に初回開催予 定 以降は協議の上決定
備 考	<b>【協働者（機関）】</b> 箱根町、学校法人国際学園 <b>【実績】</b> 2018年度 大磯町立国府保育園、同大磯小学校、同国府小学校で実施 2019年度 大磯町立大磯小学校、同国府小学校、同国府中学校、 小田原市立富士見小学校等で実施 2020年度 箱根町仙石原幼児学園で実施 2021年度 箱根町湯本こどもクラブ、箱根こどもクラブ、きんときクラブ、 大磯町立たかとり幼稚園等とバーチャル交流を実施		

### (5) Seisa Africa Asia Bridge (SAAB) の開催

- 世界こども財団、一般社団法人星槎グループ、学校法人国際学園、学校法人星槎、および実行委員会共催の上記イベントを今年度も継続して開催する。目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。
- 2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底しつつ、3年ぶりに一般来場者を迎える開催となった。同時に過去2年の経験を活かし、全プログラムをオンライン7チャンネルで配信した。
- 2023年度においても、オンライン配信の継続をしつつ、状況に適した形で開催する。

### SAAB 開催の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
SAAB 2023の 開催	国内およびアフリカ、 アジアを中心とした国々	来場者、視聴者、 および参加生徒等	2023年11月11日
備 考	<b>【協働者（機関）】</b> 一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎 JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）他 <b>【後援（機関）】</b> アフリカ各国の駐日大使館、外務省、神奈川県、横浜市、小田原市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、JICA 他 <b>【実績】</b> 2015年より毎年開催		

(6) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム

- ・2022年度より、新規事業として、世界こども財団職員を高校に定期的に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として開始した。
- ・本取り組みでは、まずは学校法人国際学園の2学校（星槎国際高等学校八王子学習センター、同立川学習センター）において、ブータン王国のプログラムを担当する職員により、ブータンをテーマとして文化を学び、特に食文化に着目して生徒が主体となってキッチンカーを運営するゼミ等を実施した。
- ・また、生徒の国際貢献を促すべく、生徒会と連携しての募金活動や、不要品回収の活動等を実施した。
- ・現在のプログラムは2023年3月まで継続し、以降についても学校側のニーズを踏まえて継続していく予定。

出張授業プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業	国内	生徒および学校関係者	2022年度より継続
備考	【協働者（機関）】 一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

(7) JICA 横浜との協働による日系社会研修受け入れの実施

- ・JICA 横浜が推進している日系社会研修（主に南米の日本にルーツを持つ青年の日本での研修事業）に当財団のプログラム案が採択されたため、協働し研修生の短期受け入れを実施する。
- ・研修のテーマは「共感理解教育と日本文化」とし、星槎グループのネットワークを活用して各教育機関での研修を実施するほか、日本文化を体感できるプログラムを盛り込み、2023年1月に1ヶ月程度で実施予定としている。現状、ブラジルより1名受け入れの方向。
- ・また、同プログラムで再度、採択を受けたため、2023年12月または2024年1月頃にも同プログラムを実施予定。日程は応募状況およびJICAとの協議により後日決定する。

日系社会研修受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
日系社会研修	中南米における日系社会	研修参加者	(1) 2023年1月17日 ～2月17日 (2) 2023年12月頃（後日決定）
備考	【協働者（機関）】 独立行政法人国際協力機構（JICA）横浜、一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

## IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

### 1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

### 2 支援事業の概要

#### (1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院への支援事業

- 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界子ども財団は両者の窓口として継続的に取り組んできた。
- 工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。2021年度後半から2022年度においては、現地法人の閉鎖に向けて準備を開始、世界子ども財団は両者の窓口としてサポートを行った。
- 今後については、これまでに設立した施設等を活用して現地で可能な支援プログラムを実施するべく、引き続き協議を行う。また、必要な手続き等における株式会社矢部プロカッティングとアグラサーラ間の窓口としての業務は今後も継続する。

#### アグラサーラ孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
孤児院運営支援 交流事業	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	後日決定
備考	【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

#### (2) ベトナムからの外国人材支援

- 前述の（株）矢部プロカッティングでは、ベトナムより若く熱意のある者を社員として迎え入れ、縫製技術の習得を支援している。世界子ども財団では過去に彼らの勤務地を訪ね、交流を開始した。世界子ども財団では、日本で懸命に働く外国人材の支援の一環として、日本語教育の提供や国際交流イベントの開催等を企画、提案しており、同社と協議の上進めていく。

#### ベトナムからの外国人材支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
外国人材支援	日本	ベトナムからの労働者 および研修生	後日決定
備考	【協働者（機関）】 株式会社矢部プロカッティング		

- (3) アジア地域で、知的発達障害のある子どもとその家族を教育・医療・福祉の面で支援する団体を顕彰し、その活動を奨励する。
- 知的障害のある児童の教育に尽力し、成果を挙げている個人、団体を顕彰することにより、当該活動を支援するとともに、社会的認知を進め、環境改善につなげていく取組みである。

アジア知的障害連盟支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
Star Raft Award の提供	アジアの発展途上国	教育・医療分野の関係者	後日決定
備 考	【協働者（機関）】 AFID (Asian Federation on Intellectual Disabilities) 学校法人 国際学園		

(3) その他各国への支援

- 2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で困難を抱えながらも草の根の活動を続けるアフリカの団体や学校等を支援し、アフリカの南アフリカ共和国、マラウイ共和国、ブルキナファソ、サントメ・プリンシペ民主共和国、ガンビア共和国において寄付を行い、その活動を支援した。新型コロナウイルスの影響がある中でも、ネットワークを活かし、信頼できる協働者の協力を得ることで有意義な支援ができることがわかった。
- 2022年度もこれまで培ったネットワークを継続し、協働者とともに現地のニーズに合った草の根の支援活動を実施する。

各国支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
各国の草の根 活動支援	アフリカ、アジア の各国	学校、病院、現地支援団体お よび関係するこどもたち等	随時、協議の上決定